

## Interview

### 伊藤商店のパンフレット 学生が製作

生コン製造販売などを手掛ける伊藤商店(東海市、伊藤大司社長)で、学べるアルバイトの3期生5人が同社のパンフレットを製作した。製作者は、日本福祉大学の塩澤彩志さんと毛利真稀さん、南山大学の さん、中部大学の さん、星城大学の さん。学生が自ら紙面構成して取材するなど、これまでにない発想で9月から試行錯誤を重ねてきた。3日に成果品を見た学生に感想などを聞いた。



パンフレットの成果品について話す

「成果品を見て感じたことは、愛を持って取り組んだので感動したが、もっとやれたのではと思う気持ちもある」

「インタビューに応じてくれた人たちは熱意があり、大人ってすごいなと感じた。考え方に影響を受けることが多く、もっと内容を盛り込みたい気持ちもあったので、伺った話を短くまとめることに苦労した」

「イメージカラーのアルビをテーマに写真の配置など見やすくした」

「3カ月間を振り返って、みんな、取りあえずやってみようの考えが共通してあったので、アイデアがどんどん出てきて楽しかった。意見をぶつけ合わせることで成長したと思う」

「会社に携わる人の多さに驚いた。建設業界のつながりが多岐にわたり、支えあいながら存在していることを学んだ」

「コンクリートの会社なのにいろいろなイベントを行っているのに驚いた。経営理念を知る機会になった」

「この経験を踏まえて就活に感じることは、このアルバイトで会社を見る目が変わった。社務をやる目が変わった。社務をやる目が変わった。社務をやる目が変わった。」

## 就活生目線で訴求

### 「学べるアルバイト3期生」5人

あいつつを後ろに持っていることから始めた。自分が何のために働きたいのかを知らなくてもいいから、重要なことを、従業員や取引先の人にインタビューを行い、見せる、読ませるパンフレットを制作した。

「取材を終えて、パンフレットの成果品を見て、学生には充実感が漂っていた。これまで経験していないことをやり遂げたことで、働くことに対する考え方に変化が生じたと思う。最後に建設業のイメージについては、「固い。いまだに昭和時代の雰囲気。力仕事が多い。危険」など暗い意見が出た一方で、「カッコいい。女性も活躍できる」など好意的な意見もあった。建設業界のPRをさらに進める必要性を感じた。